

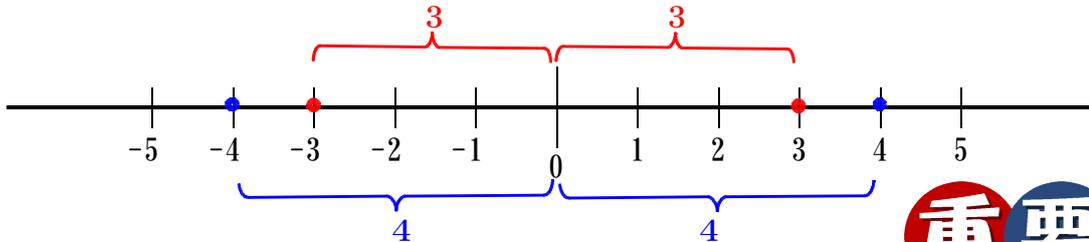
第1章 正の数・負の数

2 絶対値と数の大小 ①絶対値と数の大小

<目標> 絶対値の意味を理解し、数直線上から大小関係の理解を深める。

[教科書P19]

+3と-3、+4と-4のように、ある数と、その符号を変えた数は、数直線上で0について反対側で、**0からの距離が等しい**。



数直線上で、**0からある数までの距離**を、その数の**絶対値**という。

※ **0の絶対値は0**です。

- 【例1】 +3は、数直線上で0からの距離が3なので、絶対値は3
 -4は、数直線上で0からの距離が4なので、絶対値は4
 +1.5は、数直線上で0からの距離が1.5なので、絶対値は1.5
 $-\frac{1}{2}$ は、数直線上で0からの距離が $\frac{1}{2}$ なので、絶対値は $\frac{1}{2}$

教科書P19の問1をやりなさい。
 ※家庭学習ノートにやりなさい。

【問1】	絶対値	符号を変えた数
(1)	5	+5
(2)	8	-8
(3)	3.5	+3.5
(4)	$\frac{3}{4}$	$-\frac{3}{4}$

[教科書P20]

<確認> 数直線上に並んでいる数は、大きさの順に並び、右にある数ほど大きい。

教科書P20の問2をやりなさい。
 ※家庭学習ノートにやりなさい。

【問2】	大きい数	絶対値が大きい数
(1)	3	-4
(2)	-2	-5

【数の大小】

- ①正の数は負の数より大きい。
- ②正の数は0より大きく、絶対値が大きいほど大きい。
- ③負の数は0より小さく、絶対値が大きいほど小さい。

$-5 < 3$ $-2 > -3$
 のように、不等号を使って表す。

※③の場合 「-4と-7」の大小について考えると、

-4の絶対値...4 \longrightarrow 負の数は絶対値が大きいほど小さいので、
 -6の絶対値...6 \longrightarrow -6のほうが小さい。
 よって $-4 > -6$ となる。

教科書P20の 問3 をやりなさい。
 ※家庭学習ノートにやりなさい。

【問3】

(1) $4 < 5$ (2) $-3 > -7$

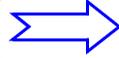
(3) $-1.6 < -0.6$ (4) $-\frac{3}{8} > -\frac{5}{8}$

※ (3) -1.6 の絶対値 $\cdots 1.6$
 -0.6 の絶対値 $\cdots 0.6$



負の数は絶対値が大きいほど小さいので、
 -1.6 のほうが小さい。
 よって $-1.6 < -0.6$ となる。

※ (4) $-\frac{3}{8}$ の絶対値 $\cdots \frac{3}{8} = 0.375$
 $-\frac{5}{8}$ の絶対値 $\cdots \frac{5}{8} = 0.625$



負の数は絶対値が大きいほど小さいので、
 $-\frac{5}{8}$ のほうが小さい。
 よって $-\frac{3}{8} > -\frac{5}{8}$ となる。

<では3つの数の大小は？> → これも不等号を使って表すことができます。

例 $-4, 2, -2$ の大小 → 以下の手順で考えます。

① 大きさの順に並べ直す $\cdots -4, -2, 2$ ← 小さい順に並べました。

② 不等号でつなげる $\cdots -4 < -2 < 2$



こうすることで、3つの数の大小も不等号を使って表すことができます。